

[学術資料]

嘉義農林学校学生の戦争体験 2

Experiences of the students called up for service at CAFPS 2

小野純子

Junko ONO

Studies in Humanities and Cultures

No. 29

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 29号

2018年1月

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

NAGOYA CITY UNIVERSITY

NAGOYA JAPAN

JANUARY 2018

[学術資料]

嘉義農林学校学生の戦争体験 2¹

Experiences of the students called up for service at CAFPS 2

小野 純子
Junko ONO

1. 聞き取りの背景・目的・意義
2. 卒業生への聞き取り調査 (1)
3. 卒業生への聞き取り調査 (2)
4. まとめ

要旨 本稿は、「嘉義農林学校学生の戦争体験」(名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』(28) 2017年7月)に続く第二弾である。本稿では、日本植民地時代の台湾、嘉義農林(嘉農)学生の戦争体験に注目し、2名の卒業生に対し聞き取り調査を実施した。嘉農は野球で名高い学校であり、これまで「野球」、「農業」以外で語られることは少なく、特に戦後の台湾における台湾人動員研究で盲点となっていた学生らの戦争体験については、学生らの一部が一方向的に言葉を発するのみで注目されることがなかった。第一弾と同様に、これまで重視されることが少なかった地方都市の学生動員について聞き取りを中心に調査することで、台湾人動員研究の中で抜け落ちていた、地方学生の動員から空白を解くことを目的としている。本稿では、同じ学校、同じ学年の同級生2名への聞き取り調査を実施したが、その結果は第一弾とは異なる個所も多かった。また今後の『留守名簿』調査につながる発見もあった。

キーワード: 台湾、嘉義、植民地、学生動員、戦争体験

1 聞き取り調査

1.1 背景・意義²

本稿では、学生として動員され、戦争体験をした嘉農第24期(1942年入学、1946年卒業)の

¹ 本研究は台湾教育部奨補助外國人士來臺短期研究要點(台湾教育部外国人研究者、台湾短期研究費)による研究成果の一部である。

² 聞き取り調査の背景と意義はすでに第一弾で詳しく述べているので、ここでは簡単に述べる。

卒業生に聞き取り調査を実施した。嘉農第24期の学生らは、終戦間際に「嘉農隊³」として動員された過去がある。彼らの「嘉農隊」への動員は、台湾における人的動員研究の中で盲点となっていた。

台湾では、口述史の研究が盛んに行われているが、動員研究に関しては、口述史の対象者は主に、志願兵、元軍属、高砂族であった⁴。また、1943年の学徒出陣、1944年の徴兵制度以外の学生動員に関する研究は、学校史から語られる「学校軍隊化」に留まっており、その聞き取り調査も学校史研究の一環として行われたものに限られていた。

更に、近年台湾映画「KANO」の公開を皮切りに嘉義の歴史が再注目されているが、これまで研究が大都市（台北、台南、高雄等）に集中しており、台北、台南、高雄等に比べ都市としての規模が一段下がる嘉義のような地方拠点都市は重視されることがなかった。地方学生の動員は軍事、歴史研究において空白であった。特定の事象を取り上げてきたことで、全体像が見えなくなっているのだ。これまでに明らかにされていない地方学生についての調査は、日本の総動員体制末期の姿を考察する上で重要であるといえる。以下に、嘉義農林学校を紹介する。

嘉義農林学校（以下、嘉農）とは、現在の国立嘉義大学の前身であり、その略称が嘉農(KANO)である。嘉農は、日本人が台湾人を育て、嘉南大圳と阿里山林場⁵の開発に従事させるための教育の場であり、台湾全土の農業学校の先駆となり、台湾の農業に貢献した⁶。台湾の林業、農業を支えていた。

1922年、第二次台湾教育令が公布され、日台共学が推し進められたが、その実態は差別的な民族別入学定員割当が行われ、台湾人の中等教育以上の進路は著しく狭かった。台湾人の進みえた道は、台北二中、台中一中、嘉義農林、台南二中、高雄中学などに限られており、実業教育での台湾人の学校としてはここが長らく唯一無二の存在であり、限られた中で重要な進路かつ拠点校であった⁷。嘉農は、台湾人における中等教育の一つの場であり、台湾産業を支える絶対の存在であった。

1.2 聞き取りの目的

本稿ではこれまでの台湾における人的動員研究の中で盲点となってきた「地方」、「学生」を取り上げることで、戦争末期台湾防衛体制の中の学生動員に関して実態を明らかにする。その一事

³ 「嘉農隊」とは、嘉義農林学校の学生を中心に編成された特設警備部隊である。しかし、学生によって編成された学徒特設警備部隊に関しては未開拓であり、その実態は不明だ。

⁴ これまでの台湾の当該研究では、先にも述べたように、研究の対象が志願兵や軍属（通訳や、戦地で部隊への野菜供給を行った台湾農業義勇団）、高砂族（高砂義勇隊）に集中し、戦争の実態よりも「志願をした」、「志願して中華民国やその同盟国と戦った」という事実が重要視されていた。

⁵ 嘉南大圳とは、1930年に竣工した当時台湾最大の農水施設であり、重要な水利工事の一つである。これにより、嘉南平原は台湾最大の穀物地帯となった。統治時代、阿里山は台湾でも屈指の林場であった。統治時代に台湾の林業を開発するため、阿里山に森林鉄道が完成した。鉄道の完成後、阿里山では林業の開発が盛んになった。

⁶ 前掲 李明仁 吳愷徳 (2009) p. 230。

⁷ 嘉義農林学校より上級の農林業教育機関として、高等農林学校（後の台北帝国大学農林専門部）や台北帝国大学理農学部があったが、台湾人の入学率は定員の5%程度、すなわち1学年に2~3名ずつに過ぎなかった。

例とし、台湾人教育の一つの場であった嘉農の生徒に注目し、聞き取りを実施した。

統治下台湾における学生動員は、台湾の台湾人動員研究の中心的課題であった「志願兵」の中での学生の志願という形を除くと大きく、①学徒出陣②徴兵制度③学校単位の動員と3つに分けられる。しかしその実態は不明な点が多く、明らかにされていない。対象者は、③に値するが、③学校単位の動員⁸は台湾史を語る上でも留意されず、「学徒兵」という一つの括りで述べられてきた。③で動員された学生らは、臨時召集部隊である特設警備部隊を編成した。特設警備部隊は1943年に編成の下令がされたものの、台湾では1945年以降に急激に数が増えた。「学生」らで編成された特設警備部隊は他地域では見られない台湾で唯一見られた部隊である。

彼らがこれまで注目されてこなかった要因は、「地方」「学生」という要因以外に、戦争末期の混乱の中で急激に数が増えた部隊であったため公式の記録が残っていないことやその編成のほとんどに徴兵年齢に達していない「学生」が動員されたことが挙げられるだろう。

研究の抜け目となっていた地方拠点都市での、これまた盲点となっていた学生の特設警備部隊への召集について聞き取りを中心に調査することで、台湾人動員研究の中で欠けていた、地方学生の動員からその空白を解くことを目的としている。本稿はその一助となる調査結果である。

その空白を解くとしたが、実際に台湾における戦争末期の人的動員は、1945年1月の徴兵制度実施が最終段階であると認識されており、1945年3月に行われた③学生動員は実態が把握されることがなく、1945年1月から終戦の8月までは研究の空白期間といえる。

以上から本稿では、「嘉農隊」と呼ばれる嘉農の学生らで編成されていた地方学生部隊の実態を明らかにすることを目的として、2名に聞き取り調査実施した。第二弾の聞き取り調査は、これまで積極的に語り部となってきた第一弾蔡清輝氏（以下、蔡氏）とは異なるものであった。以下、報告する。

1.3 聞き取り調査対象者と質問項目

本稿では、嘉農学校第24期卒業生2名に対し聞き取り調査を実施した。まず、聞き取り対象者の情報とその選定理由、質問項目とその選定理由を述べる。

—対象者(1)の情報—

林泰岳氏

⁸ 台湾における学生動員に関しては、高橋英男（1998）『台湾における「学徒兵」召集の実態とその法的背景』において詳しくまとめられており、高橋（1998）では多くの戦史資料や学校史などを収集し丁寧に検討している。しかしその一方で、学生の特設警備部隊に関しては、書中でも触れられているが、高橋自身が部隊番号に不整合、矛盾があると述べているように、部隊番号の異なる個所や出典が明らかでないため内容の確証が得られない箇所は少なくない。また、明らかな間違いもある。高橋（1998）によれば台湾では、1945年、台湾全島の大学、高校、高専、師範学校、中学（高学年）の男子生徒が一斉に召集を受け、概ね学校単位で学徒特設警備部隊に服することになった。高橋英男 1998『台湾における「学徒兵」召集の実態とその法的背景』美巧社 31頁を参照。

1927年生まれ

台湾・嘉義県・新港出身

嘉農第24期学生

林泰岳氏を対象者として選定した理由は、以下である。

- ・本稿のテーマが対象とする学年の卒業生である
- ・「嘉農隊」に所属していたと自ら発していた蔡氏（第一弾の対象者）同級生の一人である

筆者と対象者である林泰岳氏（以下、林氏）とは、まったく面識がなく聞き取り調査日が初対面であった。第一弾でお世話になった蔡氏を通じて同級生に声をかけていただいた結果、聞き取り調査への協力が快諾してくださった。戦後70年以上経ち、動員された学生らも現在90歳前後であり、聞き取り調査が可能な対象者を見つけることは容易ではないため、貴重な対象者である。林氏は、嘉農卒業後、就職の際に台北に移り、それがその後の人生を大きく左右したようだ。本稿は林氏が論文等へ掲載としては初めて戦争体験に関して語ったものだろう。

—対象者の情報(2)—

陳裕雄氏

1927年生まれ

台湾・嘉義県・北港出身

嘉農第24期学生

陳裕雄氏を対象者として選定した理由は、以下である。

- ・本稿のテーマが対象とする学年の卒業生である
- ・「嘉農隊」に所属していたと自ら発していた蔡氏（第一弾の対象者）同級生の一人である
- ・蔡氏ほど積極的な行動はしていないが、口述歴史練習プログラムに語り部として参加されるなど比較的協力的である

筆者と対象者である陳裕雄氏（以下、陳氏）とは、2015年4月に台湾国立嘉義大学で実施された「2015 棒球口述歴史研習營⁹（口述歴史練習プログラム）」で出会った。当日、陳氏は蔡氏と共に貴重な語り部として口述練習プログラムに参加されていた。その後、蔡氏と同級生ということで改めて協力をお願いした。

⁹ 2015 棒球口述歴史研習營に関しては、以下に詳しい。

http://www.ncyu.edu.tw/NewSite/news3.aspx?news_sn=2477&pages=4 <http://jasyou.wixsite.com/ncyuohc>

これまで国立嘉義大学で卒業生に対し、聞き取り調査を実施し多くの成果を得ており、陳氏も対象者として協力しているが、本稿は陳氏が論文等へ掲載としては初めて戦争体験に関して語ったものだろう。



(2015年4月24日国立嘉義大学蘭潭校舎にて 鍾富如撮影 左から陳裕雄氏、蔡清輝氏 筆者)

聞き取り調査は、蔡氏の調査と同様に、筆者が事前に質問項目を準備し、それにお答えいただく形で進めた。内容は、それぞれの生まれから学徒兵体験に関するものであり、筆者の最も関心の強い「学徒兵」を中心に質問した。調査では、主に日本語を使用した¹⁰。調査の大部分は日本語で行われたが、途中一部、中国語を使用した。また対象者(2)の調査では、陳氏と蔡氏の会話は台湾語を使用していた。

聞き取り調査は、2回に分けて実施し、2回目は1回目に取り上げた内容の確認作業であった。その際、新たに得られた証言箇所は、筆者による下線部分である。

質問項目も蔡氏と同様であるが、以下、選定理由を記載しておく。聞き取り調査の一番の目的は、地方学生の動員の実態を明らかにすることであり、本稿においては下記質問項目にある「嘉農隊」(質問項目⑤～⑦)が大きな手掛かりとなる。

①基本情報の確認

- ・年齢、出身などの基本情報
- ・当時、台湾人としては比較的珍しかった中等教育機関へ進学していたのでその進学理由と将

¹⁰ 事前の対象者調査で対象者の日本語能力に不安があったため、聞き取り調査項目表に中国語訳をつけて、印刷し(文字フォントを3倍にして印刷)、実施した。

来設計に関する質問。

②家庭の状況

- ・家庭の状況が兵隊経験に影響している事例もあるので学生として召集されるまでの家庭の状況についての質問。

③学校生活

- ・台湾では1925年より学校の中で軍事訓練の時間が設けられていた。学生生活について質問することで軍事訓練の思い出などが出てくるのではないかと推測し、学生生活についての質問。ご本人の意思のより、国民学校時代と嘉農時代とに分けて記載。
- ・台湾の聞き取り調査では欠かせない「戦後」について、学校関連の戦後の話題についても触れた。

④志願兵制度

- ・当時台湾では志願兵制度がとられており、志願するのが当たり前であったという事例もあるが、対象者は志願することなく召集されたので、志願兵についての質問。

⑤「嘉農隊」について

- ・聞き取り調査の中心である、「嘉農隊」について質問。
- ・「嘉農隊」と同時に編成されたとみられる「嘉中隊」についても質問。

⑥「嘉農隊」についての基本情報

- ・「嘉農隊」への入隊方法
- ・部隊編成
- ・任務

⑦「嘉農隊」での様子

- ・台湾人学生以外の召集状況
- ・食糧事情
- ・言語
- ・敗戦時の状況

終戦間際の日本は食糧難であったが、台湾では比較的食糧事情は良かったと言われている。その実態についての質問と教えられた「日本語」と母語である「台湾語」2つの言語が存在していた中で、軍隊という命令系統の中ではどちらが使用されていたのか知るための質問。

⑧戦後

- ・台湾で、聞き取り調査をする際に欠かせないのが戦後についての質問である。戦後の歩み方によって聞き取り調査の回答は大きく変わってくる。

⑨「日本精神」

・嘉農には、「嘉農精神」という言葉が存在する。日本語世代の語りの中でも度々登場する「日本精神」という言葉と交えての質問。

⑩最後のまとめ

実際の聞き取り調査は、事前に上記の理由で選定した 10 項目（聞き取り調査結果の太字部分）に沿って進めた。聞き取り調査結果の箇所は質問項目に対応した形で記載している。

2. 卒業生への聞き取り調査 (1)

2.1 聞き取り調査結果

・第 1 回聞き取り調査

日時：2016 年 3 月 29 日

場所：台湾・新北市・三重区 林氏自宅

所要時間：1 時間

使用言語：日本語、中国語

対象者：林泰岳氏

訪問者：小野純子

・第 2 回聞き取り調査

日時：2016 年 4 月 7 日

場所：台湾・新北市・三重区 林氏自宅

所要時間：1 時間

使用言語：日本語、中国語

対象者：林泰岳氏

訪問者：小野純子

—聞き取り調査結果—

① 年齢、出身、当時の所属/年齢、出生地、当時所属的単位

昭和 2 年生まれ。90 歳。嘉義・新港出身。龍山脚、場所の名前。

・嘉農に進学した理由/進入嘉農學校的理由

大学に行くつもりがなかったので、農学校へ行った。中学だとまた大学へ行かないといけない。農学校で済まそうと思った。昔、中学に入るのは難しい。学校も少ないから難しい。嘉義だと嘉義中学と嘉義農林だけ。少なかった、間違いない。

・嘉農に進学した時点での将来設計（卒業したら何をするつもりだったか）/進入嘉農的當時的未來規劃（畢業後打算做什麼）

その時は、特に考えてはいなかった。偉い人になろうとは思ってなくて、入れるだけでうれしかった。学校も少ない。あの時の嘉義は、嘉義中学と嘉義農林だけであった。後々に嘉義商業ができた。専修科というのもあったと思う。私が入ったのは5年制の時だった。

② 学生動員されるまでの人生/動員前的人生

・家庭状況、学歴、教育状況/家庭状況、學歷、教育情況

学歴は、新港国民学校、蔡さん¹¹と同じ、それから嘉義農林へ入学。18歳までは全部日本語で育った。父親が教員だった。台湾師範学校出身で国民学校の先生だった。そのため早く改姓名した。古民小学校の校長先生だった。父親が教員だったので、兄も2人の妹も教員になった。妹2人は台南師範で、先生ばかりの家だった。学校へ入る2,3年前に改姓名をした。牧野正忠（正はまさ、忠はちゅう）。

③ 学校生活について/學校生活

・一番印象に残っていること/印象最深的事情

国民学校時代

裸足で正常歩の訓練ばかりした。裸足だったよ。靴がないから。靴があっても全校がみんな裸足だったから。国民学校のときはずっと。

嘉農時代

特になし。嘉義農林の時は、靴は履いていたよ。特別というものがない。忘れてしまった。

・戦後、同窓会などはあったか/戦後有沒有舉行同學會？同學中有沒有日本人？

時にあるらしい、通知はもらうけど、あまり連絡ができていない。昔カメラがなく、写真も全然撮ってなくて写真もない。

・日本統治時代、しっかりとした教育課程を学ばれていると思うが、それが戦後どのように役にたったか。/日治時代受過的教育，學習的內容在戦後有派上用場嗎？

何もない、思い出せない。思い出せないね。

¹¹ 「嘉義農林学校学生の戦争体験」（名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』（28）2017年7月）第一弾の対象者、蔡清輝氏。

④ 志願兵制度が施行されたとき、年齢に達したら志願しようと考えていたか。/志願兵制度開始當時，若您已到可志願的年齡，會選擇志願嗎？

どうかな。あれまでは、あんまりなかった。私たちのあの時は、年齢は達していない。中学に入るのに身体検査があった。通らないと受験ができなかった。兄はこれに通らなかった（目が悪かった。中学には行けなかった。中学に行かなくて、国民学校の高等科に行った。あと、半年訓練して教員になった。17,8歳だった。兄は志願兵だったと思う。

・例えば原住民は、皆が志願するのが当たり前であり、志願しないと冷たく見られたという例もあるが、耳にしたことがあるか。/比方說，原住民志願當日本兵是理所當然的事，如果不志願的話會被他人冷眼以對，請問您聽過像這樣的事情嗎？

そんなことはなかったと思うけど、特に感じなかった。志願兵へ行く前に軍夫というのが、あった。

⑤ 嘉農隊とは？/嘉農隊是怎麼樣的部隊？

別に名前は付けていなかったと思う。あまり覚えていない。1クラス1クラスで小隊だった。1クラス40～50人。

・嘉中隊とは？/嘉中隊是怎麼樣的部隊？

あったと思うが、あんまり覚えがない。

⑥ 嘉農隊について/關於嘉農隊

・嘉農隊にはどうやって入ったのか？/是如何加入嘉農隊的？

(学生全員が入ったのか、学年で差異があったのか、形式的にしる何か「志願」した／させられたのか、親の同意はあったのか) /學生全員都必須加入嗎？有沒有學年的差異？加入部隊是一種志願嗎？需要父母的同意嗎？

どのように入ったとかはなく、クラス全部、甲乙丙とクラスがあって、それぞれ甲組が1小隊、乙組が1小隊、丙組が1小隊。私たちは丙組で1小隊だった。1小隊でちょうどいいクラスの人数だった。学校生活の延長線でそのまま連れていかれた。苦しくもない。とにかく学校の続き。特別応募したわけでもない。身体検査などもなかった。うやむやのうちに1クラスそのまま連れていかれて、何が何だか分からない。そのまま山の中へ連れていかれた。学徒兵の時は検査もなく、そのまま連れて行かれた。

・嘉農隊の部隊構成はどうなっていたのか？/嘉農隊的部隊構成

(中でどのような小隊や分隊などにわかれていたのか、学校の先生と配属将校はそれぞれどう関与したのか、林さんはどんな班に入ったのか) / 有細分成小隊或分隊嗎？學校老師與配屬將校各自與部隊之間的關係？林先生配屬於什麼樣的班？

クラスごとに色々な場所にいた。自分は龍山脚。隣の組が、石頭石(いしあたまいし)にいた。1クラスが中埔。中埔が本部だったと思う。自分がいたのがどこだったか。龍山脚だと思うけど、覚えてない。忘れた。3つあった。上の学年は学徒へ行っていない。卒業した。在学中だったから4年生だけが学徒兵となった。訓練もしていない。クラスごとにいた。

・嘉農隊の任務は何だったのか？/嘉農隊的任務是什麼？

(全体の任務とは、その中で林氏の任務は何だったのか、装備は何があったのか、戦闘訓練はしたのか、どこに配属されたのか) / 任務整體中，林先生負責什麼樣的任務有？有什麼裝備？有沒有戰鬥培訓？

何をしていたかな。何もしていない、覚えていない。覚えてない、何をしていたかな。大した訓練もしていないと思う。忘れた。米軍が来たら爆弾を抱いて体当たり。ただ訓練はしなかった。役にも立たないから訓練もない。こんな感じがあった。生命をそんなに重く見ていない。国のため、結果は見えていない。米軍に体当たりしていれば良い。

⑦ 嘉農隊の軍隊での様子/嘉農隊の情形

・他にどのような人が一緒にいたか。(志願兵、徴集兵、日本人) / 嘉農隊の人員構成為？比如說，志願兵、徴集兵或日本人

小隊長が軍人だったと思う。クラスメートだけの小隊。1組1組1小隊。1人の軍人と学徒兵だけだったと思う。

・食糧はどうしていたか。/食糧的情況怎麼樣？

中埔は本部で、食べるのには困らなかった。本部へ飯炊きに行き、ご飯を担いで龍山脚に帰ってくる。中埔へ取りに行く。食べ物は大体あった。

・台湾人同士での会話における使用言語および状況/台灣人間會話中使用的語言與情形

日本語。家でも日本語だった。父親が先生だから。家族でおじいさん、おばあちゃんさんが台湾語。事実、戦後、台湾語を話さないから、台湾語が分からず困った、つまずいた。あの時は、みんな日本語だから本当に台湾語にはつまずいたよ。

・日本の敗戦をどこでどのような状況下で知ったのか。/是在什麼樣的情況下知道日本戰敗的

兵の中で知った。天皇陛下が放送するから、放送をみんなで聞くように言われた。ただ実際に聞いたかは覚えていない。よく気を付けて聞くようにと言われた。

⑧ 戦後について/有關戦後

・戦後、日本に対して何か感情はあったか。/戦後、對日本是什麼樣的想法？

思い出せない。

⑨ 「日本精神」という言葉について/關於”日本精神”

嘉農精神もそうだけど、考えたことがない。そんなに深いことか。

⑩ 最後に、日本の教育を受けて、学徒兵となったという経験は人生の中でよかったと思えるか。

/最後、接受日本の教育，作為學徒兵的經驗在您的人生中可說是段好的經驗嗎？

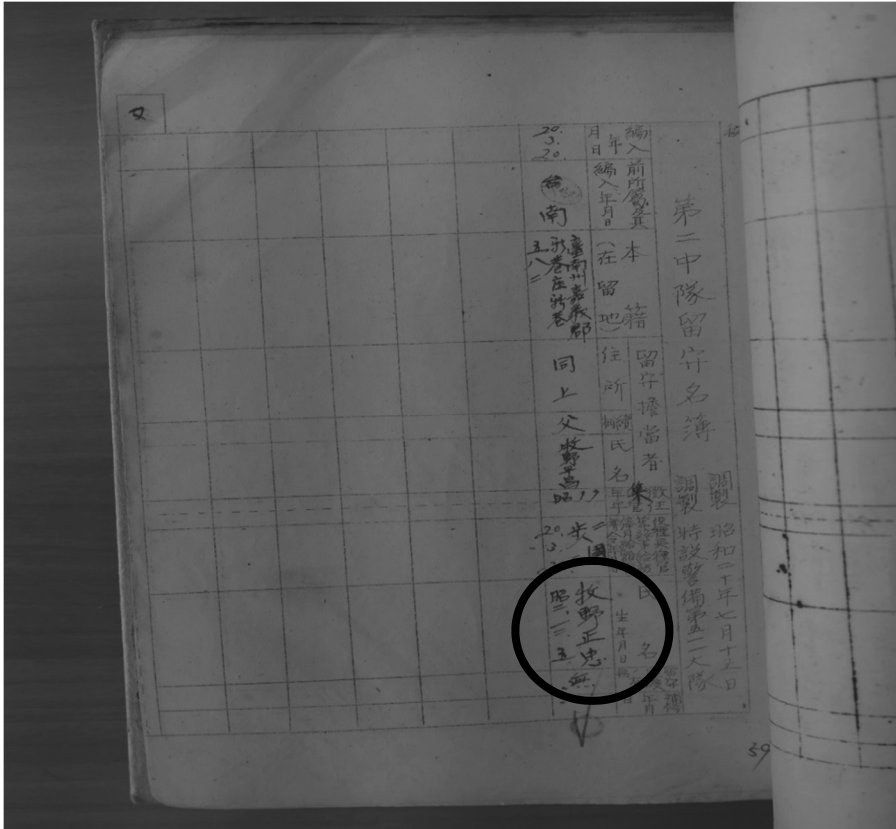
ない、特にない。何もやることもない。待機だけが仕事、役にも立たない。戦後、学校に戻った。ただ病気にかかり1年休学したので、みんなより1年卒業が遅れた。この1年遅れて卒業したおかげで、就職の際に台北に配属された。1年遅れたおかげで台北に来た。でないと嘉義の田舎。台北になった。その後、レストランを自分が1個拵えて、ビールを売っているわけ。台北に行っただのは大きいこと。

2.2 調査(1)のまとめ

対象者林氏は、これまで自身の学生生活や戦争体験に関して、語ることはなかった。そのため、第一弾の蔡氏への聞き取り調査と比べて所要時間も短く、「覚えていない」「忘れてしまった」という回答が多かったのが印象的だ。しかしそのような中でも、学生動員された当時のことは、比較的覚えているようであった。例えば、部隊の駐屯地などは真っ先に出てきた。

先に調査を行った蔡氏、そして今回調査を行った林氏、彼らは「学徒兵」という言葉で一括りにされ、これまでその学生動員の実態は明らかにされてこなかった。聞き取り後に日本で行った調査において、国立公文書館つくば分館所蔵『留守名簿¹² 特設警備第511大隊・台湾第13871部隊(学徒)』から林氏の召集についての手がかりをつかんだ。

¹² 『留守名簿』とは特定歴史公文書であり、外征部隊所属者の現状と留守関係を明らかにしたものである。それは兵士の個人情報とその留守宅の一覧であり、留守宅は戦死した際の連絡先であった。『留守名簿』は、「戦没者援護関係史料の公文書館への移管」事業により、2010年以降、厚生労働省から国立公文書館へ移管された。8000件以上ある『留守名簿』のうち359件が台湾関係だ。ただし全てが「要審査」の非公開状態であるため、閲覧、公開までには時間が必要である。



『留守名簿 特設警備第511大隊・台湾第13871部隊留守名簿』：国立公文書館つくば分館、2016年9月2日筆者撮影

『留守名簿 特設警備第511大隊・台湾第13871部隊（学徒）』には、編入日、地区、個人の住所、本籍地、身内の氏名（父・母・兄・妻など）、本人の氏名、生年月日が記載されている。林氏は、本留守名簿に1945年3月20日召集、特設警備第511大隊第二中隊に第二国民兵役歩兵二等兵として編入されたことが記録されていた。林氏の記録は本研究を進める上で大きな進歩となった。それは、名簿に記載された林氏の情報（及び留守宅者の情報）が、改姓名後の日本名であったのだ。『留守名簿』は、内地籍、外地籍と分けて記載しているものもあるが、多くは分別されていない。その為、名前からそれを判断していたが、林氏のように改姓名で記載されている記録があることが判明した。

3 卒業生への聞き取り調査(2)

3.1 聞き取り調査結果

- ・第1回聞き取り調査

日時：2016年4月25日

場所：台湾・嘉義県・新港 蔡氏自宅

所要時間：1時間

使用言語：日本語、中国語（台湾語もあり）

対象者：陳裕雄氏（蔡氏と蔡氏の奥様同席）

訪問者：小野純子

・第2回聞き取り調査

日時：2016年6月28日

場所：台湾・嘉義県・新港 蔡氏自宅

所要時間：1時間半

使用言語：日本語、中国語（台湾語もあり）

対象者：陳裕雄氏（蔡清輝氏と蔡氏の奥様同席）

訪問者：小野純子

陳氏の調査に関しては、1回目の調査段階で蔡氏や林氏が語る「嘉農隊」とは違った部隊に所属していると証言したため、調査中から対象者の部隊に関する回答をもらった。また、記憶があいまいな部分も多く、下線部である2回目の調査の方が参考となる個所も多い。また、聞き取り調査中に、蔡氏が発言する部分があったため、その個所は各項目の最後に（蔡氏：）として記載した。

—聞き取り調査結果—

① 年齢、出身、当時の所属/年齢、出生地、当時所属の単位

1927年（昭和2年）、90歳。台湾の北港出身。学徒兵だったけど、学生全部がそこに移動した話、部隊の名前はない。学校の名前を使っていたか。

・嘉農に進学した理由/進入嘉農學校的理由

特別な理由はないけど、当時としてはこの方面の名門校であり、憧れていた。

・嘉農に進学した時点での将来設計（卒業したら何をするつもりだったか）/進入嘉農的當時的未來規劃（畢業後打算做什麼）

当時、そんな先のことは特に考えていなかった。何の計画もしていない。

② 学生動員されるまでの人生/動員前の人生

・家庭状況、学歴、教育状況/家庭状況、學歴、教育情況

北港国民学校から嘉義農林。1番上の兄が嘉義農林第18期の卒業生だった。もうその時、兄は卒業していた。

③ 学校生活について/學校生活

・一番印象に残っていること/印象最深的事情

国民学校時代

特に印象がない。あの時の生活は、戦時中で、大概空襲でいつもびくびくしていた。格別に印象というものはない。

嘉農時代

少し苦しかった。毎日が苦しかった、飛行機の空襲がひどく毎日びくびくしていた。みじめだとも感じた。学校での軍事訓練は基礎訓練だけだったが学徒よりも厳しかった。学校の訓練は、軍隊に負けない。学校には銃器庫があり、村田銃が閉まってあった。上級生は銃を使って訓練し、下級生は使わなかった。訓練の途中で兵隊になった。

・戦後、同窓会などはあったか/戦後有沒有舉行同學會？同學中有沒有日本人？

あるが、だんだん少なくなっている。

・日本統治時代、しっかりとした教育課程を学ばれていると思うが、それが戦後どのように役にたったか。/日治時代受過的教育，學習的內容在戰後有派上用場嗎？

別に役になったという印象もない。というのは民族性が違い。戦後すぐは、中国兵が来て、彼らと民族性が違って合わなかった。彼らは日本教育を嫌がっていた。

④ 志願兵制度が施行されたとき、年齢に達したら志願しようと考えていたか。/志願兵制度開始當時，若您已到可志願的年齡，會選擇志願嗎？

考える余裕もない。今言え、ちょっと強制的だった。兄弟も行くことはなかった。兄も行かなかった。

・例えば原住民は、皆が志願するのが当たり前であり、志願しないと冷たく見られたという例もあるが、耳にしたことがあるか。/比方說，原住民志願當日本兵是理所當然的事，如果不志願的話會被他人冷眼以對，請問您聽過像這樣的事情嗎？

当時はそのような考えは持っていなかった。

⑤ 嘉農隊とは？/嘉農隊は怎麼樣的部隊？

印象はほとんどない。嘉農隊ではなかった。「嘉農隊」ではない、なので、嘉農隊の話は分からない。実戦もしていないし、戦地へも行ってないから印象がない。陣地構築それだけです。

・嘉中隊とは？/嘉中隊は怎麼樣的部隊？

当時の学生部隊は、学校名でつけられるのが通常だったと思う。

⑥ 嘉農隊について/關於嘉農隊

・嘉農隊にはどうやって入ったのか？/是如何加入嘉農隊的？

(学生全員が入ったのか、学年で差異があったのか、形式的にしろ何か「志願」した/させられたのか、親の同意はあったのか) / 學生全員都必須加入嗎？有沒有學年的差異？加入部隊是一種志願嗎？需要父母的同意嗎？

(ここから先は、ご自分の部隊の話¹³)

入ったのではなく、召集された。学徒は学校全部が召集される。いつどこに集合するという通知のみで、身体検査などもなかった。自分は、あの当時、全台湾で30名が頂六にある拓士道場に選抜された。嘉農からは7名だった。条件があり、まず長男や一人息子ではないこと、体力・体格、成績だった。名義上は、満州へ行き農業指導をするために集められた。ただ自分たち自身は、地下工作ではないかと思っていた。もし敗戦しなかったら満州へ行っていたと思う。軍の中の養成所だった。動作が機敏で、頭が良いことも条件。一つの秘密組織だった。

学徒兵が先に入営した。自分たちは、1、2ヵ月遅かった。その間、空襲がひどく学校にも行っていなかった。体格がいいものは残された。何も知らないまま行ってみたら、同学もおり、他校の生徒もいた。このことは、公開していない。同級生もみんな知らないはず。全台湾の学徒兵から選抜した。7人は、ナカザワ（日本人）とキュウ（台湾人）がいた、あとは忘れた。日本人が3分の1くらい。

所属した部隊名はなかった。部隊番号もなかったと思う。正式の軍隊には編入されていない。細かい記憶はずいぶん昔のことでなくなってしまった。学校を經由して、先生から学徒兵の通知をもらった。年だから忘れてしまったことも多い。30人いたけど、ほとんど関わりを持つことがなかった。30人は、いた場所も別々だった。全員が頂六にいたわけではなく、台中の田中にある拓士道場に行った人もいる。空襲で避難していない人は、田中に行った。

¹³ 陳氏は「嘉農隊」の人員ではないと証言している。質問項目は事前作成のため「嘉農隊」と記載しているが、これより先はご自分の部隊の話として調査を進めた。

(蔡氏：前もってその7名は学校側によって抽選されていたのではないと思う。僕は同じクラスの同級生、嘉農隊でしょう、でも彼は、頭がいいから選ばれていったのか。この話は全く知らなかった。僕の印象では頂六は命部隊の本部だから選抜された人が本部にいたのか。)

・嘉農隊の部隊構成はどうなっていたのか？/嘉農隊の部隊構成

(中でどのような小隊や分隊などにわかっていたのか、学校の先生と配属将校はそれぞれどう関与したのか、陳さんはどんな班に入ったのか) /有細分成小隊或分隊嗎？學校老師與配屬將校各自與部隊之間的關係？陳先生配屬於什麼樣的班？

特に覚えていない。1期、2期、3期と以前にも同じように選抜して集められていたようだ。

・嘉農隊の任務は何だったのか？/嘉農隊の任務是什麼？

(全体の任務とは、その中で陳氏の任務は何だったのか、装備は何があったのか、戦闘訓練はしたのか、どこに配属されたのか) /任務整體中，陳先生負責什麼樣的任務有？有什麼裝備？有沒有戰鬥培訓？

終戦間際であまり訓練もなかった。入ったばかりで終戦した。そのため特に任務はなく、陣地構築。

⑦ 嘉農隊の軍隊での様子/嘉農隊の情形

・他にどのような人が一緒にいたか。(志願兵、徴集兵、日本人) /嘉農隊の人員構成為？比如說，志願兵、徴集兵或日本人

すべてが学徒兵だった。一般的な民間人はいない。30人の中に3分の1は日本人だった。農業指導という名目があったので、農業学校の学生が多かった。使ってはいないが、1人1本銃を持っていた。使ったこともない。三発式の銃。軍服を着ていた。

(蔡氏：嘉農隊は、銃は持っていなかった。)

・食糧はどうしていたか。/食糧的情况怎麼樣？

少し不足していた。問題はなかった。食べることはできた。

・台湾人同士での会話における使用言語および状況/台灣人之間會話中使用的語言與情形

30人の中での会話は全て日本語、台湾人同士でも日本語だった。

・日本の敗戦をどこでどのような状況下で知ったのか。/是在什麼樣的情况下知道日本戰敗的

玉音放送のあの放送を聞いた。あの放送を聞いて、敗戦を知った。突然だった。

(蔡さん：嘉農隊はラジオがなかったため、聞いていない。除隊と言われたただけだった。)

⑧ 戦後について/有關戦後

・戦後、日本に対して何か感情はあったか。/戦後、對日本是什麼樣的想法？

別に深い印象もない。ただ、これはここではちょっとタブー。あんまり日本びいきの色眼鏡だと思われる。

⑨ 「日本精神」という言葉について/關於”日本精神”

個人的な考えだが、嘉農精神。それは団結的な精神で、日本精神的。よその学校の精神は団結精神がない。嘉農の生徒は恐れられることが多かった。それは、何かあれば嘉農の生徒は団結すると知られていたから。30人の中でも特別な存在であった。

⑩ 最後に、日本の教育を受けて、学徒兵となったという経験は人生の中でよかったと思えるか。

/最後、接受日本的教育，作為學徒兵的經驗在您的人生中可說是段好的經驗嗎？

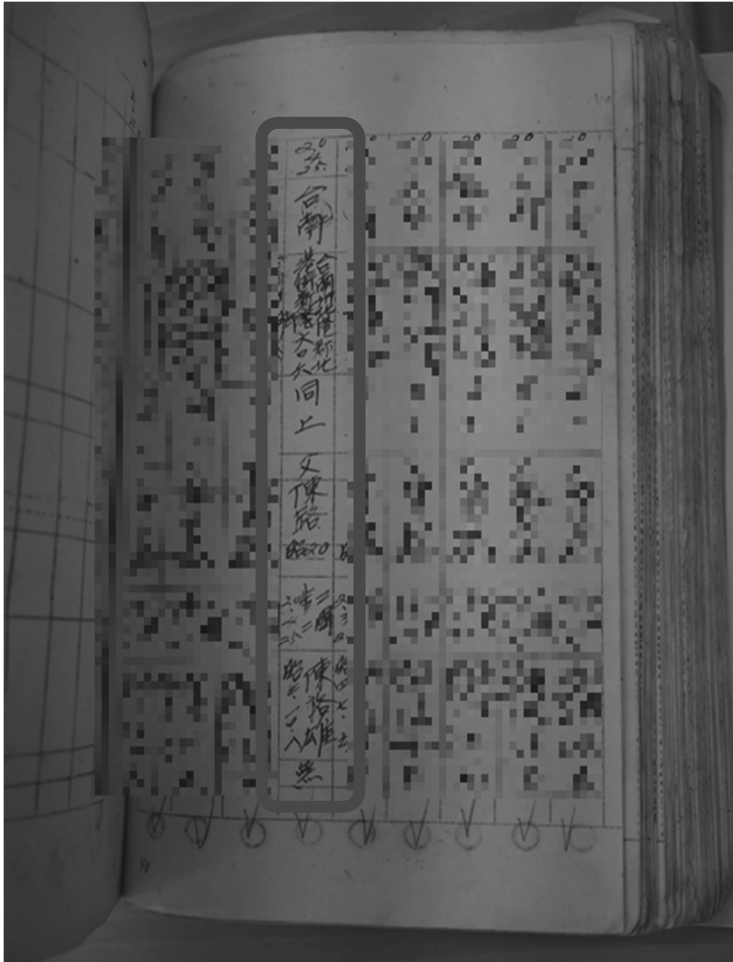
良いこともあるけど、悪いこともある。総じていえば僕らにはあまり影響がなかった。ただ一つ言いたいのは、日本の教育は、今の教育よりも優れている。これだけははっきり言えることだ。

2.2 調査(2)のまとめ

対象者陳氏は、これまで自身の戦争体験に関して、語ることはなかった。それは、陳氏が体験した戦争体験が学校単位動員でありながら、その他の同級生と違った歩みだったためだ。

学校単位の動員は、1945年3月20日に第1回目の召集が行われて以後、4月、6月、7月とその各部隊により異なるが人員の補充が行われていた。陳氏の証言によれば、陳氏は3月20日には召集されず、そこから1、2か月遅れて召集されたようだ。更に、陳氏はその他大勢の学生らとは異なる全島の選抜部隊（嘉農からは7名選抜）に所属していたと証言している。

聞き取り後に日本で行った調査において、国立公文書館つくば分館所蔵『留守名簿 特設警備第511大隊・台湾第13871部隊（学徒）』から陳氏の召集についての手がかりをつかんだ。



(『留守名簿 特設警備第511大隊・台湾第13871部隊留守名簿』: 国立公文書館つくば分館、2016年9月2日筆者撮影)

陳氏は、『留守名簿』によれば1945年4月25日召集、特設警備第511大隊第二中隊に第二国民兵役歩兵二等兵として編入されたことが記録されていた。しかし陳氏は、自らを選抜部隊と証言していたが陳氏の兵士記録が記載されていたのは、特設警備部隊第511大隊の『留守名簿』であり、それは嘉農の学生(及び周辺学校の学生)によって編成された部隊であり、選抜部隊ではない。4月25日に動員された学生は多数いる上、第二国民兵役歩兵二等兵というもの他の生徒と同様である。『留守名簿』という公式史料を調査しても陳氏に関する動員実態は明らかにならなかった。もし、そのような選抜部隊が存在していたとすれば大変興味深いことだ。

4. まとめと今後の課題

本稿では、第一弾の対象者蔡氏の同級生である林氏と陳氏への聞き取り調査結果を報告した。両者の調査結果に関するまとめはすでに述べたが、これまで調査を実施した3名は同じ学校、同じ学年、学年（学校）召集されていたにも関わらずそれぞれ違った戦争体験を話してくれた。

本稿での聞き取り調査で、嘉義地区の学生動員を明らかにする一助となる証言を得ることができたことは大きな成果である。これまでに空白となっていた「学校単位動員」の実態解明の一助となり得る。しかし一方で陳氏の調査結果のように証言と公式史料が一致しないなど不明な点も多い。今後、聞き取り調査で得た証言と公文書館『留守名簿』の調査を継続し、更に現地調査を積み重ね、学校史などを丹念に調査していく。

参考文献

日本語文献

高橋英男(1998)『台湾における「学徒兵」召集の実態とその法的背景』美巧社
『留守名簿』(国立公文書館つくば分館)

中国語文献

謝濟全(2009)『山子頂上的草根小紳士 日治時期嘉義農林學校之發展』稻鄉出版社
台灣総督府職員録系統 <http://who.ith.sinica.edu.tw/mpView.action>
李明仁 吳慎德 (2009)『椰影・金穗・野球情』國立嘉義大學 98 年度校慶暨嘉農創校 90 年記念特刊』國立嘉義大學校友會